産業経済の発展と菓子業界の振興

藤井　馨（ふじい かおる）

（84歳）

住所

秋田市

昭和28年秋田県菓子協同組合理事長に就任、更に昭和37年から全国菓子業界の協会役員として、業界の指導育成に努めるとともにその振興に尽力している。

特に、昭和40年秋田市で全国菓子大博覧会を開催、また、昭和41年には県産米の利用拡大をはかるため秋田いなふく米菓協同組合を設立し、県産米の加工による秋田米菓の名声を全国に広めるなど、本県産業の振興と物産の販路開拓に大きく貢献している。

更に、昭和29年以来秋田商工会議所議員、常議員、副会頭等を歴任し、業界の基盤づくりと充実強化に寄与するほか、秋田県中小企業団体中央会理事、発明協会秋田県支部理事等多くの要職を務め、本県の経済、商工業の発展に幅広く活躍している。

社会福祉の向上

湊（みなと）　　ク　ニ

（83歳）

住所

秋田市

戦後、昭和20年代中頃より民生委員法、身体障害者福祉法、社会福祉事業法、生活保護法等新しい福祉施策が実施されていくなかで、精神薄弱者対策の立ち遅れを憂い、精神薄弱者を持つ親たちが協力しあい、互いに子供たちの幸せを守ろうと昭和31年「秋田市手をつなぐ親の会」を結成、更に全県にその輪を広げ昭和34年には「手をつなぐ親の会秋田県連合会」の結成に尽力された。

また、昭和32年精神薄弱児通園収容センター「南浜学園」の設置に努め、昭和36年には私財を提供して在宅精神薄弱児通園センター「若竹学園」を設置、更に同学園を収容施設として発展させるとともに昭和44年には成人の収容施設「竹生寮」を設置経営するなど本県の精神薄弱者福祉の振興発展に大きく貢献している。

桐タンスの振興と後進の育成

石井金之助（いしいきんのすけ）

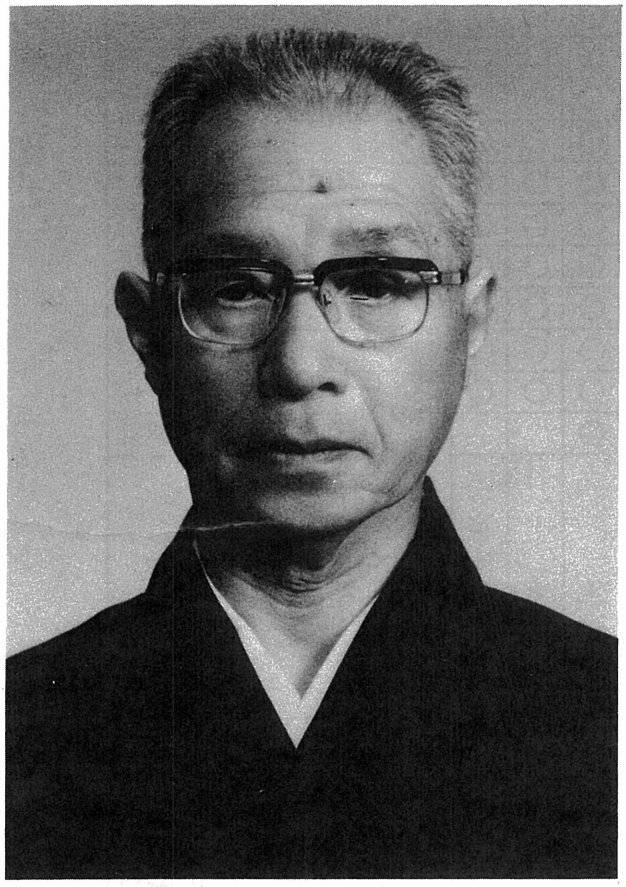
（81歳）

住所

南秋田郡五城目町

大正８年指物業に従事し、大正11年タンスの製造研究のため、先進地の東京市に赴き多年にわたり高級タンスの製法の研さんを積み、帰郷後終始一貫して、総桐タンスの意匠の工夫、品質の改善に努め県内工芸展はもとより、各種展覧会に於て数多くの作品が入選を果したほか、各地で開催される桐タンス講習会に講師として招かれ、卓越した技能をもって後進の指導育成に尽力している。

また、昭和34年から五城目タンス協同組合理事長、秋田県家具工業会理事、昭和40年から秋田県木工連合会理事等の要職を歴任され、業界の指導育成に尽力するなど本県木工業界の振興発展に大きく貢献している。



謡曲の普及指導

斎藤金也（さいとうきんや）

（77歳）

住所

秋田市

昭和３年謡曲・観世流に入門以来、謡曲の研さんを積まれ、昭和26年に秋田観世九皐会の創立に参画、昭和28年には秋田観世斉謡会を主宰し、謡曲愛好家の指導育成に努めるとともに、昭和45年には秋田県謡曲連盟の結成に尽力し、同連盟の基盤づくりと充実強化に尽くされた。

また、昭和57年には会長としてこれまで絶えていた能楽観賞を「能と狂言に親しむ会」の名称のもとに謡曲三流（観世、喜多、宝生）の協力により実現し、本県における演能の基盤を築くなど謡曲の普及、発展に大きく貢献している。

書道の普及指導

佐藤　信（さとう　まこと）

（76歳）

住所

秋田市

昭和３年から昭和44年まで小・中学校長等を歴任し、子弟の教育に尽くす一方、昭和25年に秋田県書写書道教育研究会の創立に参画し、昭和31年から14年間にわたり同会会長として指導者の技能の向上、児童生徒の書写力の向上等を図るとともに、昭和28年には児童生徒の書道誌「書友」を発刊し、その主幹として編集・指導にあたるほか、書道学習を志す児童生徒のための全県席書会を創設し、小・中・高校生が同一条件で腕を競う異色の展覧会として名声を高めている。

更に書道愛好者のための湖心会を結成し、中央より講師を招き、現代書の先端を学ばせるなど書道教育の振興に尽力している。

また、秋田書道展その他各種書道展の審査員を務めるなど、本県書道界の発展に大きく貢献している。

地域医療の振興と小児医学の向上

菊池清彦（きくちきよひこ）

（71歳）

住所

秋田市

昭和24年県立中央病院小児科々長に就任以来、多数の患者の治療にあたる一方、日本小児科学会秋田県地方会会長、秋田県小児保健会会長、日本小児科学会評議員等を歴任し、小児保健、小児衛生思想の普及に努め、秋田県小児医学向上の指導的役割を果している。

また、秋田県民健康会議母子保健部会委員として母子保健分野の推進に尽力するとともに、秋田市医師会の予防接種委員会委員、秋田県社会保険診療報酬審査委員、国民健康保険診療報酬審査委員等多くの要職に就かれ予防接種及び保健医療の普及、発展に大きく貢献している。